

## 会議等経過報告書

1. 件名	令和7年度第2回大船渡市立図書館協議会
2. 日時	令和8年2月19日（木） 午後1時30分～午後3時30分
3. 場所	大船渡市民文化会館（1階展示ギャラリー）
4. 出席者	委員：藤村敏夫会長、金野晋副会長、佐々木規子委員、白木澤京子委員、村上泰子委員 図書館：（市）平野館長、菅野係長、田中主任 （指定管理者）原田総括責任者、中井業務責任者、小野寺副業務責任者

### 会議等の内容（要旨）

**1 開会**（進行：平野館長）

委員出席状況の確認。出席5名、欠席3名。

**2 会長あいさつ**（藤村会長）

**3 議事**（進行：藤村会長）

**報告第1号 令和7年度図書館事業の実施状況及び利用状況（4月～12月）について**

（菅野係長、原田総括責任者説明）

■（佐々木規子委員）

児童数減少の中で貸出冊数や人数が増えている要因は何か。「お話パレード」等のイベントでも人が増えている実感がある。

（原田総括責任者）

小学生（特に高学年）と未就学児の伸びが顕著である。低学年時に生活科見学でカードを作る流れが定着し、成長後も来館が継続している。また、今年度開始した\*\*「配本事業」\*\*が大きく寄与している。スクールバス等の制約で来館が困難だった学校へ図書館側から本を届けることで、団体利用が大幅に増加した。

（藤村会長）

ブックスタートからの「切れ目のない」施策の成果が、数字となって表れ始めている。

■（金野副会長）

阿部暁子氏展などの企画展の成果が資料で分かりやすく示されている。実施側の工夫（期間延長等）も見えるため、継続してほしい。

（原田総括責任者）

数字での評価は難しいが、定性的な手応えは大きい。「昭和100年を読む」展では、黒電話などの実物を展示に加えることで世代間交流の会話が生まれるなど、本とモノの相乗効果を確認できた。また、内館牧子氏の追悼展示のように、市民の関心が非常に高いトピックへの瞬発力ある展示も意識して取り組んでいる。

■（佐々木規子委員）

楡修平氏の企画など、市民文化会館と連動した前振りとなる展示や、アニメ・映画との連動も検討できないか。

（藤村会長）

指定管理者のノウハウにより、展示の作り込み（みちのくゴールドロマン等）が格段に向上している。旬な話題（芥川・直木賞、大谷選手関連本など）を取り入れる「攻めの姿勢」を今後も維持して

いきたい。

## 報告第2号 令和7年度図書館資料の購入状況（4月～12月）について（原田総括責任者説明）

### ■（金野副会長）

同じ予算でも買える冊数が減ってしまうなど、厳しい面が見て取れる。

## 協議第1号 第3次大船渡市子どもの読書活動推進計画について（菅野係長説明）

### ■（金野副会長）

学校図書館ボランティアの配置に偏りはないか。

### （平野館長）

地域コーディネーターが全校のバランスを把握し、調整を担っている。ボランティア不在だった末崎小への新規配置を実現するなど、地域とのマッチングを強化している。

### ■（白木沢委員）

「不読」という言葉や、学習スペース利用者への読書勧奨は、忙しい中高生にプレッシャーを与えないか。用語（アクセシブル、居場所）の整理も必要だ。

### ■（菅野係長）

委員の指摘は非常に腑に落ちた。学習スペースでの読書勧奨は大人の押し付けになりかねないため、本との自然な出会いを創出するような、柔軟い表現に計画を修正する。用語の注釈追加や統一も、全体を見直して調整する。

### ■（金野副会長）

スマホでの電子書籍利用も「読書」として捉え、今の時代に合ったアンケート手法を検討すべき。

### （菅野係長）

今回寄せられた意見を反映し、回答案に「ICTを新しい読書スタイルとして有効活用する」旨の文言を盛り込み、紙媒体に限定しない読書推進を明文化する。

### ■（村上委員）

コロナ禍の特殊な数値を基準にすると、今後の目標が実態と乖離する。

### （菅野係長）

令和2年度は家庭学習支援で大量貸出を行った背景がある。そのため、県の目標値も参考にしつつ、上昇率5%程度を目安とした現実的な数値へ目標を再検討し、修正する。

### ■（金野副会長）

適正蔵書数を「15万冊」とし、数よりも見やすさを優先する方針を評価したい。

### ■（平野館長）

直営時代の「蓄積重視」から、指定管理者の視点を取り入れた「鮮度と活用重視」へ方針転換した。余裕を持った配架で、利用者目線の蔵書構成を目指していく。

## 5 その他

### ・利用者アンケートへについて（平野館長）

アンケートの自由記載への回答は次回までに作成し、説明する。

## 6 閉会（午後3時30分）